

事業報告書

団体名：先憂後楽みらい会

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	みらいのむらとまちづくりプロジェクト
3. 実施場所	亀岡市立人権福祉センター・亀岡市天川児童館
4. 実施期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、情報など)

会長、副会長が中心となり各会員によって、知識や情報、文化的素材の収集を実施した。その内容を取りまとめ、亀岡市人権福祉センターにおいて9回の勉強会を実施し、今年度はこの勉強内容を広く周知するため、10月30日にシンポジウム「山と水、隼人ころの生態系シンポジウム」を開催し、このシンポジウムの内容をまとめた冊子「山と水、隼人ころの生態系シンポジウム」を発行しました。また、3年前から試験的に行ってきた環境計測器を設置し、データの収集を実施しました。

■月例勉強会

(1)日時：平成28年4月15日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：一年間の学習スケジュールについて。江戸期の丹波・京都の歴史を学ぶ。「水と緑のミニフィールド」のプラン化。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：11名

(2)日時：平成28年5月20日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編第1巻、丹波・桑田の分（神話～古代初期）までを検討。「水と緑のミニフィールド」報告。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：9名

(3)日時：平成28年6月17日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、古代初期～古代中期までを検討。「佐伯遺跡、発掘へのかかわり報告」

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：11名

(4)日時：平成28年7月15日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、古代中期～古代末期までを検討。これまでのモノクロ・セピア色の歴史学説の整理。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：17名

(5)日時：平成28年9月16日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、古代末期～中世までを検討。文学作品から歴史を見る報告。シンポジウム開催へ向けた打ち合わせ。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：14名

(6)日時：平成28年11月18日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、中世・鎌倉を検討。少子高齢化問題の歴史的教訓。シンポジウム報告冊子出版への課題検討と作業分担。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：13名

(7)日時：平成28年12月16日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、古代～中世の外国との関連と隼人・渡来人研究。上田正昭先生の業績研究。

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：15名

(8)日時：平成29年1月20日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：『新修亀岡市史』資料編、中世南北朝期資料検討、新旧「亀岡市憲章」の歴史研究

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：11名

(9)日時：平成29年2月17日（金） 午後7時～9時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：ギャラリー「市民講座、明智光秀」の歴史と当時の庶民の生活歴史の比較研究。能楽の中に歴史を詠む（花重荷検討）

講師：先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：13名

■シンポジウム『山と水、隼人こころの生態系シンポジウム』

日時：平成28年10月30日（日） 午後1時～4時

場所：亀岡市立人権福祉センター

内容：講演「オーストラリア先住民アボリジニに学ぶ水の循環と心の生態系」
報告「よみがえる隼人の足跡をみつめ、新たな歴史とみらい」

講師：龍谷大学准教授 友永 雄吾さん、先憂後楽みらい会 副会長 杜 晃精さん

参加人数：46名

6. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

「高齢化」「少子化」の現中部（南桑中学校区）の現状、特に2000年以来、2015年までの変化と1970年、1985年などの15年間ずつの変化をデータで比較し、60歳以上人口、15歳未満人口の変化と旧小字（3つのケース）での生活相談ケースの類型化とその質について考え、歴史学習の平城初期（710～750）と平安初期（800～840）の2時代の歴史文献による記述・記録・データ、「万葉集」とそれ以降「古今集」の和歌を「文学の感覚の差」ではなく、時代を越えた「歴史」「社会」「家族」や「老」「若」に対する視線の差は何か。それがなぜ生じたのかを一部であれ、明らかにしてきました。

「先憂後楽みらい会」の活動にとどまらず、いくつかの地域の子育ての世代の方々や高齢者の方々とも交流・議論し、これまでの「私的」「自分のみの領域」の「家族観」では、この課題は矛盾の「緩和」はなしえても、「解決」しきれないものが残ります。

歴史上の経験からの「家族像」の変化が良きも悪きもありました。明治以来の近代家族観を開いて、自分や自分たちだけ家族・高齢者・年少者が存在しているのではなく、「拡大家族」とも言うべき、家族を取り巻く一回り大きな（旧隣組やサークル、見る、声の聞こえる）範囲での子育て、高齢者の見守り等、相互の「育てあい、育ちあい」を行うことこそが課題解決の方向性だということを見出し、交流・地域防災・環境保全活動等に参加して、人と人との輪を広げてきた次第です。

こうした中、「山と水、隼人こころの生態系シンポジウム」の開催および冊子の作成・配布。それを基に、ミニ集会、高齢化・少子化の歴史や現在の課題を深める交流が始まりました。また、「オーストラリア先住民アボリジニに学ぶ水の循環」を亀岡の前掲地域の河川と里山有利と対比させ、地域の自治体や共有林森林組合と学習会や水質保全の活動・災害対策活動の輪が拡大しました。

7. 協働の効果	<p>事業実施にあたって、他団体等と協働で実施された場合は、実施の効果や今後に向けての課題について、具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p> <p>※市民連携事業に関わらず、他団体との協働があった場合は記入してください。</p>
<p>当会では、亀岡市・保育所・小中学校・高等学校、更には大学の教授と一緒に調査研究を実施してきました。また、NPOや地域の自治会とも連携しながら、シンポジウムの開催や冊子の作成を実施してきました。こうした中、地域でつながり明るい未来をともに作り上げていこうという目的のもと、各関係機関・団体からそれぞれの視線での意見をいただき、当会の活動がより活性化してきております。子どもたちや高齢者が、相互に育みあうような関係が生まれつつあり、今後もこうしたつながりを大切に、少しずつでも広がって行くような取り組みを実施していきたいと考えています。</p> <p>また、環境保全是、昨年秋は山間の林道が災害のため荒れており、里山フィールドは子どもたちには困難であり、大人たち10名強で2度、10月に実施し、水源・水系の上部と山の植生、人工林から自然更生林へのシフト等についてフィールド出来ました。(森林組合、大阪産業大学等の研究チームと協力)</p>	
8. 今後の展開	<p>事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。</p>
<p>1. 地域課題解決は初年(初期・古代・中世)の研究が終わり、古代の「高齢」貧富の差による「少子化」の当時の実態把握から、次年度、中世・近世の社会と現代の課題解決の道をテーマに研究を続けていきます。</p> <p>2. 水と環境は浄い水を利用したの“わさび田”などのアタックや、植林しない「天然更新」により、近代以前の里山への回路を探り、NPOや森林組合とともに、「焼き窯」「炭焼き」等に至るような環境保全と柔らかな生活への寄与の道筋を、水や緑を介して、地域諸団体、世代を越えた交流を図ります。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



山と水、隼人こころの生態系シンポジウム (2016年10月30日)



月例勉強会 (2016年7月15日)



月例勉強会 (2016年11月18日)

森の京都

あら とうみぶんか かんきょう れきし しょうたい
新たな共生文化・環境・歴史フィールドへの招待

せんゆうこうらく
先憂後楽みらい会主催

やま みず はやと せいたいけい 『山と水、隼人こころの生態系シンポジウム』

わたしたちの国の「たから」である豊かな自然環境と地域の多様な文化資源を見つめ直し、新たな共生の文化を未来世代へ継承するための気軽な寄り合いを開きます。

日時 2016年10月30日(日)

午後1時から午後4時まで

会場 亀岡市立人権福祉センター(ミルキーウェイ)

内容

講演 『オーストラリア先住民アボリジニに学ぶ水の循環とこころの生態系』

龍谷大学 准教授 友永 雄吾先生

報告 『よみがえる隼人の足跡をみつめ、新たな歴史とみらい』

新修亀岡市史 執筆委員 杜 晃精さん

フィールドワーク 『古代から近代へ隼人の歩み』(近隣地：予定)

問い合わせ 先憂後楽みらい会 代表 石田 道夫

携帯電話番号 090-8938-8694 気付 亀岡市天川児童館 23-2920

共催 龍谷大学 国際社会文化研究所

勉強会で意見を交わす会員たち。それぞれ好きな分野の歴史を掘り下げて研究している(亀岡市神田野町・市人権福祉センター)



京都新聞

7月23日

土曜日



京都新聞社
〒600-8111 京都市中京区錦町5丁目



先妻後妻みらい会(亀岡市)

今年3月に亡くなった歴史学者の上田正昭氏が会の名付け親という。学問は全ての人の愛いが必要となるまで続けなさい」との気概が込められている。毎月1回の勉強会では郷土史から世界史までを丹念に研究する。教科書には載らない歴史を学ぶのが狙いだ。

勉強会では、上田氏らとともに亀岡市史を執筆した副会長の経済学者社
今年15日の勉強会で
「正しい歴史とは何か。自分で昔の文献や史料をひもとく、探究するのが面白い」。杜さんは学問の醍醐味をこう語る。

は、大学教授や小中学校の教諭、地元住民ら会員約30人が、自らの先祖のルーツをたどり、身分の移り変わりや時代背景などについて意見を交わした。

4月から参加している南桑中の社会科教諭北村拓洋さん(40)は「同市篠町」は「明治以降の民衆の暮らしぶりに興味がある。毎回新たな知識を得られるのは教師として貴重な機会」と話す。

他の会員たちも、飛鳥時代以前の建築物に着目し、当時の設計技法に想像を膨らませたり、部落差別の起源を調べ上げた。それぞれが好きなテーマで知識を深めている。

教科書にはない歴史研究

今秋以降は、亀岡市内の石碑などを巡るフィールドワークや小学校での出前授業、上田氏の功績を振り返るシンポジウムを催す計画だ。

会長の石田道夫さん(66)は「各自が興味のある分野を徹底的に調べ、歴史の楽しさに触れてほしい」と話している。(森大樹)

先妻後妻みらい会 2014年4月結成。会員は20〜80代の30人。勉強会は毎月第3金曜日の午後7時から亀岡市神田野町の市人権福祉センターで。大会時にテキスト代など3千円が必要。石田会長の携帯電話090(869300)8694。